先住民族等を対象として、正義と平和のために働く新組織 JPIC について

民族楽器の名手で、サムラング出身のロミオ（元奨学生・現 CMIP 運転手）は、JPIC のボランティアとして、民族文化継承活動を手伝っています

CMIP 本部があるノビシエトに、PC-JPIC の看板を掲げる事務所が開設されてほぼ 2 年になります。人権侵害や環境破壊問題等に取り組んでいると聞いていましたが、最近の CMIP の民族文化振興の動き（P1 参照）も、この PC-JPIC（Passionist Center for Justice,Peace and Integrity of Creation）の影響と分かりました。私たちの CMIP 地域での活動継続のためには、この JPIC の理念や活動を知る必要があると考えて、スタッフの一人、セシールさんに、JPIC の紹介をお願いしました。年明けに届いたのは、同僚のアル・ネザールさんによる寄稿で、しかも、かなりの長文でした。以下は、紙面の関係で、要訳、抄訳の了承をいただいた JPIC の紹介です。　(事務局：山﨑)

JPIC の成り立ち、活動

寄稿：アル・ネザール・アリ

JPIC は、課題山積のミンダナオ社会のために何かしたいというメンバーの強い思いにより、2 年前に発足しました。事務局長レイ神父、ペリア弁護士、ソーシャルワーカーのセシール、アーティストの私、そして財務担当のサンシャインの 5 名です。その後先住民族リーダーも加わり、市民組織として登録しました。

私たちがめざすものは、被造物の尊厳のために、平和と正義が支配する社会の実現、抑圧されている人々の解放です。問題を正しく把握し、適切に対処するための賢明さが求められます。因習にとらわれない、型にはまらない自由な組織も目指しています。

中核スタッフのセシールは、20 年前ミッションの活動に参加し、その 1996 年のサムラングでの事業で HANDS と出会いました。その後、多くの NGO で先住民族（ルーマド）に関わり、その豊かな経験をもとに、JIPC の活動向に、又、確実に実を結ぶため導いてくれると期待しています。

20 年前のサムラング・クリニック事業でのセシール(右端)中央は当時の CMIP 代表ノノイ神父(写真：山﨑)

ミンダナオにおける多国籍鉱山会社の開発、石炭火力発電所建設など、特に先住民族地域の環境を破壊するいわゆる開発プロジェクトには、環境に調和して生きる先住民族の権利を侵すものとして、反対の立場で行動しています。また、自然と調和して生きてきた伝統的共同体住民は、このような開発企業進出に対して、反対の声を上げる権利を持っていると思います。

私たちの役割は、こうした自らの存在を脅かす開発と対峙するサウスコタバト州やサランガニ州の先住民族に対して、各種情報の提供や法的支援をし、また、対決の方法を、研修の実施を通じて助言するなど支援することだと思っています。JPIC が有する人的資源、ペリア弁護士による無料法律相談等の法的サポート、セシールの長期にわたるソーシャルワーカーとしての経験と進歩的見識等を生かしてもらえると思っています。

JPIC の最初のターゲットは CMIP エリアです。各地区で、慣習法の学習、フィリピン先住民族権利法や、国連の先住民族の権利宣言の学習やワークショップを実施しています。

これらの研修を通じて、先住民族の土地権復活や、民族の自決権主張における伝統文化の役割などを学び、また、問題を正しく理解することで、住民間の意見対立を解消することができるようになりました。

JPIC はサウスコタバト及びサランガニ州の先住民族地域の分布図作成や、伝統儀式に使う植物やハンディクラフト材料その他の伝統的植物の種子の保存や繁殖等にも取り組んでいます。このような活動には、子どもたちも大人に交じって参加し、楽しんでいるようです。

一方で、このような儀式や伝統文化復活支援は、JPIC の活動の一部に過ぎません。各地での土地収奪問題や環境破壊、さらに労働災害の問題等の取り組みも始めています。

昨年末、満 2 年を迎えた JPIC は、各地の先住民族共同体の長老や住民を招いて、「先住民族の権利の主張」をテーマの大集会、”Bong kastifon”を開催しました。(写真右)

3 年目の 2016 年は、同じような目的を持って活動するフィリピンの内外の組織とも協力して、正義と平和の推進、すべての人びとの尊厳を守るために働きたいと考えています。